



ハマチは、なぜ高い値段と安い値段のものがあるの

ハマチはブリの子ども

ハマチは、関西方面で、まだ成長しきっていない体長が40センチメートルぐらいのブリのよび名です。ブリは5～6年かかっておとなになる魚で、東京では体の大きさによってワカシ(15cmまで) イナダ(40cm) ワラサ(60cm) ブリ(90cm以上)とよび名が変わります。関西では、ワカナ(15cmまで) イナダ(30cm) ハマチ(40cm) メジロ(60cm)というよび方をしています。

養殖ブリをハマチとよぶ

ブリは1メートル以上になる大型魚で、味がおいしいため、高級な魚として、昔から人気がありました。幼魚をつかまえて、いけす(海を網でかこったもの)でイワシや人工飼料をあたえて育てた、養殖ブリがたくさん売られています。この養殖ブリをハマチとよぶことが多いようです。

養殖ブリと天然ブリ

海を自由に泳いでいるブリは、身が引きしまっていて味がよく、特に、冬にとれる寒ブリは、あぶらがのっておいしいので有名です。でも、ふつうは、養殖ブリに比べて、値段は高いものになります。養殖ブリは、せまいかこいの中で、たっぴりえさをあたえられて育つため、太って、あぶらがのっています。養殖ブリは、品質がそろっています。天然ブリに比べて、値段が安くて買いやすいのがいい点です。

値段が高いハマチは、天然のブリの子どもで、安いハマチは、養殖ブリなのです。

(監修・安部 義孝)

